



# 容リ協ニュース

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会

The Japan Containers and Packaging Recycling Association



新潟市の資源とごみの情報誌「サイチョPRESS」

## CONTENTS

interview 2-3

サステナビリティ広報大使  
マシンガンズ 滝沢 秀一さん

3Rの広場① 4-7

ラク&エコの  
PETボトルを目指して

アサヒ飲料株式会社

全国清涼飲料連合会

3Rの広場② 8-11

ごみ処理施設を  
火災のリスクから守れ!

新潟市

トピックス・容リ協日誌 12-15

- 3R推進団体連絡会  
「2019年度の3R取り組み報告」
- 「プラスチック品質等に関する研究会」の開催
- 「エコプロOnline2020」に出展
- 容リ協ホームページ英語版サイトに  
制度資料を掲載
- 市町村説明会の開催
- 容リ協日誌／編集後記

地球を守り隊! 第12回 16

日本の“Mottainai”が  
世界に広がる!  
「もったいないばあさん」  
プロジェクト

環境省と講談社の  
共同プロジェクト

No. 86 2021年 2月発行

協会ホームページへは

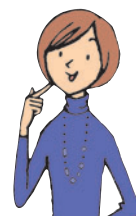
リサイクル協会

検索

<https://www.jcpra.or.jp/>

本誌「容リ協ニュース」バックナンバーをご覧いただけます

もご利用ください



## ごみ問題を もっと身近に わかりやすく

マシンガンズ  
滝沢 秀一  
さん

お笑い芸人とごみ清掃員という異色の二刀流で活躍するマシンガンズ・滝沢秀一さんが2020年10月、環境省から「サステナビリティ広報大使」に任命されました。日頃からごみ問題や環境問題についてわかりやすく発信するその活動についての思いや、今後の目標などについてお話をお聞きました。

### サステナビリティ広報大使とは

環境省が進める「地域循環共生圏」を創造するための施策について理解と共感を広げるべく、思いを同じくする方々を「サステナビリティ広報大使」として任命し、広報・普及啓発活動等を通じた情報発信への協力を仰ぐ制度。



### 小泉環境大臣とは 直接電話でつながる関係

昨年、「サステナビリティ広報大使」に就任されましたが、指名を受けた際のお気持ちをお聞かせください

指名いただきとてもうれしかったですね。ごみ清掃員の視点からごみや環境に関する問題をテレビやラジオ、本やマンガ、SNSなどを通じて発信してきましたが、これからもよりわかりやすくいろいろなところで語ってもらえればといわれています。私のような芸人が話すことで興味をもってくれる人もいるかと思えます。ご期待に応えることができるようがんばるつもりです。

サステナビリティ広報大使に就任してまもなく具体的に良いこともありました。それは、最終処分場に行けたこと。前々から見学したいと考えていましたが車でないと行けない場所が多く、私は車どころか免許も持っていないのでどうしたものかと。そんなとき、小泉進次郎環境大臣の視察予定を耳にし、「私も同行していいですか」とお尋ねしたところ、快諾いただきました。

小泉環境大臣はとても気さくな方で、私に直接電話をかけてくることもあります。例えば、「製品プラの件はどう思う？」など、清掃員の立場からの意見を求められま



### 日本のごみの量は 「とにかくすごい」の一言に尽きる

日頃、ごみ清掃員として勤務する中で、特に印象的だった出来事といえばどんなことがありますか

8年ほど前から東京でごみ清掃員として働き始めたのですが、当初はごみの量に圧倒されました。収集したごみを一時ためておく「ごみピット」は縦30m×横20m×深さ20mぐらいありますが、そんな大きなスペースでも1日で満杯になってしまいます。

「このままでは日本はごみで埋まってしまうのでは？」とベテランの清掃員に聞いたところ、「あと50年でそうなるよ」と。調べてみたら本当に東京都の最終処分場は50年しかもたない、日本全体では20年くらいで一杯になると知ったときは驚きましたね。それからは、自分の生活の中でも可燃ごみの中に紙があればそれを雑紙ざつがみで出すようにするなど、ごみをいかに少なくするかを意識するようになりました。

また、ものすごい量の食べ物が毎日のように捨てられている事実を目の当たりにすると、胸が痛みます。お中元、お歳暮の時期には、もらったものがそのまま捨てられていることも珍しくありません。日本の食品ロスの問題は深刻だだと思いますね。

### 新型コロナウイルスの感染拡大で、清掃員の方もご苦労が多いと思います

年末はごみの量が多いのですが、それはその時期に限った2~3週間のこと。しかし2020年の新型コロナウイルスによる緊急事態宣言後は、家で過ごす時間が長い分、3か月間ほどずっと普段の1.5~2倍のごみの量が続きました。そうすると、私たちごみ清掃員の労働時間は必然的に長くなりますよね。

さらに、断捨離をする人も多かったようで、片付けごみがたくさん出ました。中には危険物もあって、よく見かけたのがリチウムイオン電池です。電化製品などの内部にあるので、プラスチックだと思ってそのまま捨てているのでしょうか、電池が処理場で火災事故を起こしているというのをよく耳にします。ただ、一市民の立場からいうと、リチウムイオン電池は捨てるのが大変という現状も問題ですね。この間も家に使用済みリチウムイオン電池がたまったので、清掃センターに持ち込みたかったのですが、平日の、しかも17時までしか開いていないので、あきらめました。やはり気軽に持ち込めるようなところをつくらないと、この問題の解決は難しいのではないのでしょうか。



### 今後は情報発信プラスαの活動にも取り組みたい

#### ごみ問題について発信するうえで、気をつけていることはありますか

例えば、PETボトルのラベルをはがすと清掃員が助かるという話を聞いたとします。すると、いつの間にか自分の中ではそのことが常識みたいになって、つい“こんなことも知らないのか”という態度になりがちです。常に初めてこの話を聞く人がいるという意識をもって発信することが大切だなと感じています。また、ごみ問題についての知識がなかったり、分別に興味

のない人には、「こうしなさい」と決めつけて話さないようにしています。講演の時は、現場で撮影した食品ごみの写真などを見せ

て、「あなたはどう思いますか」というスタンスで話す方がスムーズに伝わるのではないかなと思います。自分から問題に気づくことが最も重要なことですから。

清掃員の仕事を始めてから、私は“ごみは宝”という考えに至りました。分別を通じてごみの中から価値あるものを見つけることが大切なんだと。そうしたメッセージをこれからも発信していきたいと思っています。

#### サステナビリティ広報大使としての今後の抱負をお聞かせください

第一に取り組みたいのは、これまで行なってきた情報発信の活動をしっかりと継続してやっていくことです。皆さんのお役に立ちたい、喜んでもらいたいという気持ちで本を出版したり、SNSでもごみ関連の情報を発信してきました。周知活動はサステナビリティ広報大使として自分に期待されていることですので、今後も変わらず注力していきたいと考えています。

それにプラスして、今後は実際にごみの量を減らすためのアクションを起こしていきたいとも思っています。今、考えているのは食品ロスをなんとかしたいということ。飲食店などから使われなかった食材を集めてきて、それで調理した料理を無料で近い値段で食べてもらうという活動を始めようと計画しています。ゆくゆくは全国各地でいろいろな人が手軽に行なえるようになるまで発展できれば素晴らしいなと考えていて、そうなれば食品ロスの改善に少しでも貢献できるのではないかと。まだ計画段階ですが、なんとか実現したいと思っています。

それから、海外の分別状況を視察に行ってみたりもしたいですね。中国の上海では、捨てたごみ袋にバーコードが付いていて出し主を特定できるというのを聞いたことがあります。テレビなどで世界のごみ事情をレポートするような企画があれば、ぜひともレポーター役として参加したいです。



「このゴミは収集できません」  
白夜書房

# ラク&エコの PETボトルを目指して



「アサヒ おいしい水」天然水が完全ラベルレス化を実現  
PETボトルにおける環境負荷の低減と、分別の手間を省略できるラベルレスボトル。そのパイオニアであるアサヒ飲料では、2020年4月に完全ラベルレス化を実現したPETボトルの発売を開始しました。2018年からスタートしたその開発プロジェクトの目的や経緯などについて、開発スタッフへの取材を通じてご紹介します。

## 他社に先駆け ラベルレスボトルを発売

アサヒ飲料株式会社は、持続的な企業価値の向上を目指し、長年にわたって事業活動で生じる環境負荷低減のための取り組みを推進しています。中でも、製品に関わる容器包装の環境配慮対策については、PETボトルの軽量化、使用済みPETボトルを再資源化してもう一度PETボトルとして生まれ変わらせる「ボトル to ボトル」リサイクルなどを実践。これまでにさまざまなアプローチによる取り組みを行ってきました。

2019年には、プラスチック資源循環や海洋プラスチック問題などの環境課題に対する活動を強化する目的で、2030年に向けた3つの目標を定めた「容器包装2030」を制定。その中で、持続可能な容器包装の実現に向けた具体的な取り組みのひとつに挙げられているのが、「ラベルレスボトル」商品の拡大です。

ラベルレスボトルとはPETボトルを包むフィルム状のラベルをなくしたものと話すのは、アサヒ飲料マーケティング本部お茶・水グループ主任の猪股真理子さん。PET

ボトルのラベルレス化のプロジェクトに取り組んできたスタッフの一人です。

「当社のラベルレスボトルシリーズは、ラベルがない分だけプラスチックごみの削減により環境負荷を低減できるうえ、ラベルをはがす手間がなくなるので分別がラクになるケース販売専用商品です。“人にやさしく、地球にやさしい”をコンセプトに開発されたラベルレスボトル「アサヒ おいしい水」天然水を、当社では他メーカーがまだ手がけていなかった2018年5月に早くもインターネット通販にて販売を開始しています」



## 社員や消費者の声が開発のきっかけに

アサヒ飲料が、「アサヒ おいしい水」天然水のラベルレスボトルを開発したきっかけとなったのは、社内の働く



ラベルをはがす  
手間が減って

ラベルがないから  
ゴミが減って

**ラク&エコ**



ママたちからの声でした。仕事や家事、育児に忙しい彼女たちは、PETボトルを分別する際にラベルをはがす作業は意外と手間がかかるという不満を抱えていたのです。そんな声を元に、猪股さんたちのプロジェクトチームでは、エコに対する消費者向けの意識調査の中でストレスだと思ふごみの分別作業についてのアンケートを実施します。

「その結果、上位に入ったのがPETボトルのラベルはがしでした。メーカーとして、製品に対する生活者の不満を解消する義務があります。そこで、PETボトルのラベルレス化開発に踏み切ったというわけです」(猪股さん)

開発に際し、はじめに課題となったのが法定表示の問題です。通常、PETボトルの飲料水には、原材料名などの製品に関する表示を個々に記載する法律上の義務があり、これまではそれらをラベルフィルムに記載していました。ラベルをなくすには、それらの記載を他の手段で表示しなければなりません。この問題を解決に導



いたのが、段ボールでのケース売りというアイデアです。ヒントになったのは、キャンディーなどの個装入りのお菓子。PETボトルをケース売りにしてそこに法定表示を一括して記載すれば、ラベルを付ける必要がなくなることに思い至ります。

「個々の商品への記載が必要なりサイクルマークは、PETボトルに貼付したタックシールなどに記載することで対応しました。ただ、このシールが難物で、消費者の手元に届くまではがれないことが法令上の義務になっていたため、けっしてはがれず、さりとて分別時にはがしやすい接着技術の開発には大変な苦労がありました」(猪股さん)

アサヒ飲料ではインターネット通販会社の協力を得て、ケース売りの販売チャネル拡大に乗り出します。さまざまな課題を克服して生まれた「アサヒ おいしい水」天然水のラベルレスボトルは、2018年の発売当初にYahoo!のトップニュース欄を飾るなど、世間から高い注目を集めることになりました。



## タックシールを削減し、 完全ラベルレス化を実現

そして2020年4月、アサヒ飲料では「アサヒ おいしい水」天然水のラベルレスボトルを刷新します。2018年版ではリサイクルマークを印刷したタックシールをPETボトルに貼っていましたが、資源有効利用促進法の改正による識別表示ルールの変更に伴い、ボトルに識別マークを刻印すれば別途印刷による表示義務がなくなりました。これにより、直接刻印する方法のみを採用することが可能となり、完全ラベルレス化が実現しました。

「2018年に「アサヒ おいしい水」天然水のラベルレスボトルの発売でスタートしたアサヒ飲料のラベルレスシリーズは、現在「十六茶」など計5ブランドまでラインナップを拡大しています」(猪股さん)

ラベルレスボトルの販売戦略も担当するプロジェクトチームは、分別するとき

にはラベルをはがす手間を減らし

たいという声から生

まれたラベルレス

ボトルだからこ

そ、プロモーション

活動ではエコ

よりもラクを前面

に押し出して発信

していると話します。

そうしたメッセージの

方向性がたくさんの方から



の共感を得て、消費者から多くのお褒めの言葉をいただきました。最近のインターネット調査でも、「PETボトルを捨てる際にラベルを1本ごとにはがす手間がなくて便利」「環境に良い製品なのでラベルレスの対象商品をもっと増やしてほしい」といったアンケート結果が出ています。

さらに、販売状況も好調です。2020年1月から11月までのラベルレス飲料の販売数量は年間販売目標の150万ケースを上回るペースで推移。これは、2020年1年間で約60tのCO<sub>2</sub>削減が可能な数字です。このデータを見るに、新型コロナウイルスの感染拡大による巣ごもり消費の追い風はあるものの、環境意識の高まりとともに分別も簡単なラベルレスの需要が高まっているのは確実といえるでしょう。

## ラベルレスボトルの具体化を 業界全体でサポート

完全ラベルレス化を実現するうえで重要な役割を果たしたのが、一般社団法人 全国清涼飲料連合会(以下、全清飲)です。本組織は清涼飲料水の製造・販売企業で構成され、会員各社にとっての課題解決を支援することが主な事業内容になります。

例えば2018年には、海洋プラスチック問題に対する注目度の高まりを通じて巻き起こったPETボトルへのバッシングに対応すべく、2030年度までにPETボトルの100%有効利用を実現する宣言を発表。その後、業界内のさまざまなステークホルダーとともに、プラスチック



一般社団法人 全国清涼飲料連合会 河野 敦夫 専務理事

開発・製造する際のガイドラインも策定し、会員間で共有化。2020年以降、飲料メーカー各社がラベルレス飲料市場に参入し始めたのは、この業界ルールが存在が大きかったといえるでしょう。

### リアル店舗での販売など さらなる挑戦も計画中

2018年、アサヒ飲料が初めてラベルレスボトルを発売したとき、容り協のPETボトル担当者は、その発想力に驚くと同時にとても喜んだといいます。容り協では、長年にわたって使用済みPETボトルを排出する際にラベルを取り除くことを全国の市町村に対してお願いしてきましたが、当時は7~8割の達成率。その数字をさらに上げたいと目指していた容り協にとって、ラベルレスボトルの登場は、同じ目標を共有する仲間が増えた思いだったので。

そして2021年。プロジェクトチームの次なる目標は、ラベルレスといえばアサヒ飲料と認知してもらえるようにブランド力を高めること。そのため、SNSと連動したPR動画を制作するなど、インターネット通販という販売チャネルならではのプロモーション活動を積極的に展開しています。

「ラベルレスボトルは業界でも今や注目の商品です。競合商品も次々と登場する中であって、当社もラインナップのさらなる拡大を検討中です」(猪股さん)

インターネット通販だけではなく、今後はリアル店舗での販売も視野に入れているという猪股さん。アサヒ飲料のラベルレスボトルシリーズからはこれからも目が離せません。

資源循環としての本宣言を実現するべく、さまざまな取り組みを推進しています。

全清飲の専務理事、河野敦夫さんによると、PETボトルのラベルレス化を促進するためにリサイクルマークなどの識別表示の改訂を国と交渉し始めたのは2017年からだったといいます。

「当初は、PETボトルのリサイクルマークの表示サイズがプラスチックマークなどに比べて大きかったため、他の素材と同様のサイズにまで縮小させてほしいという交渉を国との間で行なっていました。というも、商品に表示すべき項目が年々増えてきたことで、特に醤油のPETボトルなどでは表示スペースを確保するのが難しくなっていたのです。その後、2018年にアサヒ飲料さんがラベルレスボトルを発売しますが、それはタックシール付きのタイプでした。完全ラベルレス化への道をサポートすべく、ケース販売の場合は外箱へPETボトル識別マークを表示すれば、個別のPETボトルへのラベルによる識別マーク表示は省略できるという案を国に提案させていただきました」(河野さん)

全清飲では2020年4月の省令の一部改正による識別表示ルールの変更に合わせてラベルレス商品を

## リチウムイオン電池



# ごみ処理施設を 火災のリスクから守れ！

現在、日本全国のごみ処理施設で発煙や発火のトラブルが頻繁に発生しています。

原因は、リチウムイオン電池を含む使用済み電子機器が

正しく分別されずに排出されているケースがあるためです。

ごみ処理施設を火災のリスクから守るべく奮闘する、新潟市の取り組みをご紹介します。

新潟市



ごみ処理施設での火災事故

### 3日に一度の割合で 発煙や発火トラブルが発生

2008年、新潟市では「ごみは有料、資源は無料」のコンセプトのもと、10種13分別によるごみ減量制度をスタートさせました。これにより、1人1日当たりの家庭系ごみ量が約3割減るなど、大きな成果を実現。また、2013年には「プラスチック製容器包装」の区分名称を、「プラマークが付いているプラスチックだけを出してください」という意味を込めて「プラマーク容器包装」に変更し、わかりやすい排出ルールを実践しています。現在も、本制度を通じてごみの減量と資源化を推進しています。

ごみ量が減少したほか、他都市と比較して高いリサイクル率となった新潟市ですが、ここ数年にあってはある課題に直面しています。それが、小型充電式電池の処理問題。「燃やさないごみ」として収集される不燃物の中に、リチウムイオン電池を含む電子機器が混入し、市のごみ処理施設で発煙や発火というトラブルが多発しています。



曾我 秀紀さん

新潟市のごみ処理施設の整備運営などを担う環境部循環社会推進課・技術グループの曾我秀紀さんによると、そうしたトラブルが3年前から急激に増えてきたとのこと。

「ごみ処理施設の不燃物処理ラインで、収集物の破碎時にセンサーが熱源を検知する事案は、2019年度1年間で143件発生しています」(曾我さん)



**TOPIC**  
その製品、電池やバッテリーが  
残っていませんか?

ごみを出すとちょっと待って!

ごみ処理施設において、電池類や充電式バッテリーが原因とみられる発煙や発火が頻発しています。

発見し機の写真は、西区の新田清掃センターで行われた充電式バッテリーの発火試験の様子です。バッテリーを充電して衝撃を与え、着火し発火する可能性があることが明らかになりました。

近年、こうした電池類・バッテリーが、取りはずせない形で組み込まれた家電製品が多く見られます。それらを「取りはずせない」となると、修理時の衝撃で発火が起きる危険性があります。ごみ処理施設内での発火はごみ焼却や燃焼炉に悪影響を及ぼし、新潟市清掃センターでも、設備の破損や火災につながる発火件数が、平成29年度に33件であったものが、昨年度は67件、今年度は9月時点で46件と、大きく増えています。

同センターでは発火事故を防ぐため、「取りはずせない」を受け入れる段階で、危険な家電製品などを取り除くチェックを行っています。しかし、市民の皆様から集まるごみを厳密に選別して取り除くことは、このチェックにかけられる時間には限りなく、危険な家電製品などをここで全て取り除くことは難しい状況です。

ごみ処理施設の火災の原因となるので、「燃やさないごみ」に出さなくてください。

【問い合わせ】環境社会推進課 ☎025-226-1427

**CHECK!** 電池類や充電式バッテリーは、取りはずしてください

**POINT** 電池類や充電式バッテリーは多く使用されるリチウムイオン電池は、変形・変形により、発熱・発火する危険性があります。家電の修理や分解は行わず、特定5品目に出してください。

**取りはずすことができる製品**  
製品本体  
材質等により分別してください  
ボタン電池は安全のため「ごみ焼却炉」で処理してください

**取りはずすことができない製品**  
製品本体ごと  
45kg以上の  
入らないもの  
ごみ処理施設の火災の原因となるので、「燃やさないごみ」に出さなくてください。

【問い合わせ】産業物対策課 ☎025-226-1407

（「ふるさと資源センター」の「資源センター」にて回収可能）

「サイチョPRESS 53号」(令和元年 10月20日)

乾電池にも発火の可能性はあるものの、充電式のリチウムイオン電池は内部に燃えやすい液体が入っていることもあり、特に発火リスクが高いといわれています。ごみ処理施設における不燃物の破碎時に、リチウムイオン電池が押し潰されてショートするというのが発火のメカニズム。新潟市では、実験によりこの仕組みを再現し、充電式のリチウムイオン電池などが発火の原因であることを特定しています。

「発火試験は市消防局の協力のもとに行なわれ、リチウムイオン電池に人為的な圧力を加えることで、それらが発火するかを試しました。地元テレビ局も取材に訪れた本実験では、推測通りに押し潰された充電電池が発火。その様子が夕方のニュース番組で放送されました」(曾我さん)

**リチウムイオン電池を含む  
電子機器の分別を見直し**

曾我さんによると、リチウムイオン電池などの充電式電池を内蔵している製品には、電動歯ブラシや電気シェーバー、おもちゃ、加熱式たばこなどがあるといいます。

「本来は、リチウムイオン電池を製品本体から取りは

ずし、『特定5品目』の乾電池類として出さなければなりません。しかし、加熱式たばこをはじめ、充電電池を取りはずすことが難しい製品もあり、それらがそのまま『燃やさないごみ』として出されることが発火トラブルの原因になっています」(曾我さん)

「特定5品目」とは、爆発や破裂の危険性があるものや、水銀などの有害物質を含む場合があるものとして、①乾電池類、②蛍光管、③水銀体温計、④ライター、⑤スプレー缶類の5品目を対象にした新潟市独自の分別区分のこと。それまでの「有害危険物」の分別名称を2013年から「特定5品目」に変更し、月に1回、ごみ集積場で回収しています。

近年、電池類やバッテリーが本体から取りはずせない形で組み込まれている製品の増加に伴い、そのまま「燃やさないごみ」の日に出されることが多くなり、そのことで発火トラブルを引き起こしているというわけです。

リチウムイオン電池などによるこうした発火トラブルを解消すべく、新潟市では「特定5品目」を見直し、2019年10月より「電池類が取りはずせない小型家電」を「特定5品目」の乾電池類に含めることとしたのです。一方で、電池を取りはずせた場合にはこれまで通り、電池類は「特定5品目」に、電池類をはずした製品本体は材質によって分別することとしました。

**リサイクル企業と協議し  
回収時の細かな条件を決定**

新潟市における「電池類が取りはずせない小型家電」のごみ分別の見直しを行なうためには、さまざまな形態の電池類を適正に処理・リサイクルできる民間企業の協力が必要となりました。曾我さん同様、環境部循環社会推進課・技術グループに所属する宮田成朗さんは語ります。

「市のごみ処理施設では、一部の電子機器を分解して電池を取り出す作業を行ないませんが、製品の構造上分解しにくいものも存在します。そうした電子機器でも引き取ってくれるリサイクル企業のひとつが野村興産株式会社です」(宮田さん)

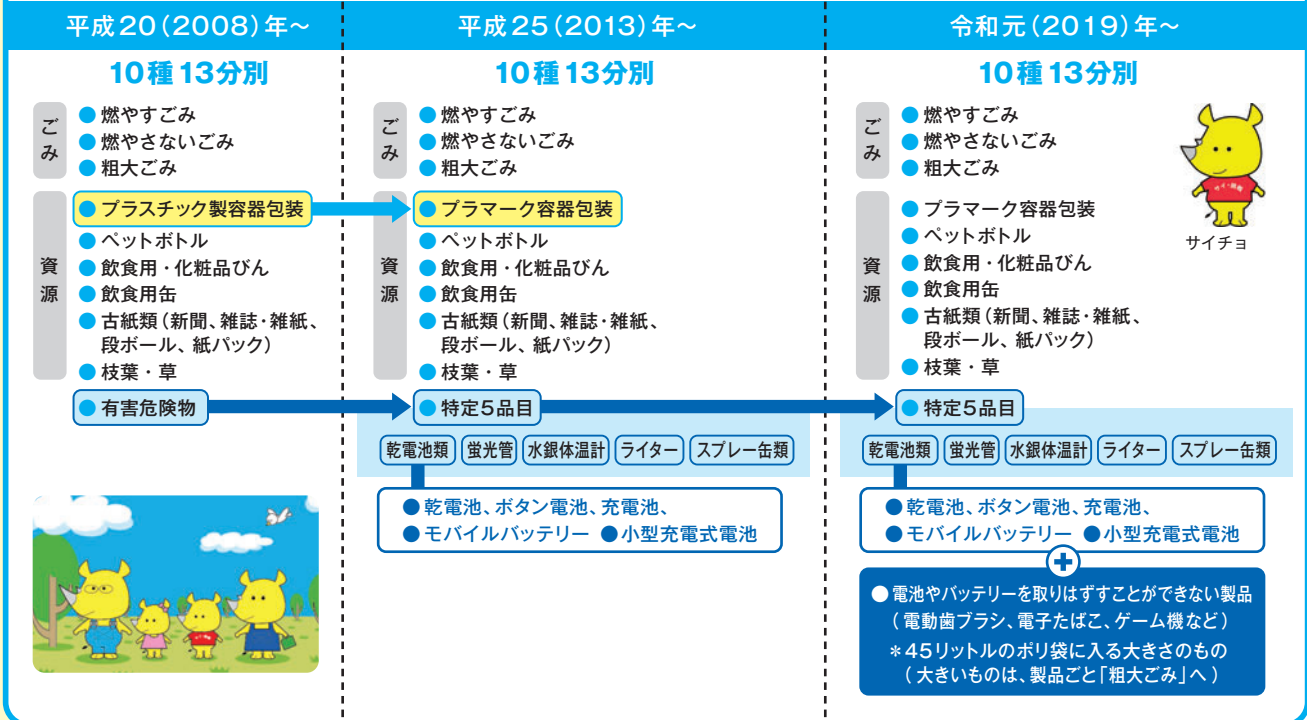


宮田 成朗さん

同社は使用済み電池の適正処理で優れた実績を誇るリサイクル企業。全国の市町村から回収した各種

## 新潟市のごみ分別

★新潟市提供資料より作成



サイチヨ



の使用済み電池類の中から、充電式電池や異物も選別できるノウハウをもっています。そのため、リチウムイオン電池が取り除かれていない電子機器でも引き受けることが可能です。

新潟市と野村興産では、市側でどこまで分解する必要があるのかを製品ごとに細かく協議。回収時の条件を取り決めています。例えば、電動歯ブラシならブラシ部分のみを除去することで回収可能に。リチウムイオン電池のリサイクルマークがない加熱式たばこやモバイル

バッテリーについては、それらが破損や変形した状態でも回収可能としています。

また、新潟県内のリサイクル企業との間で同じような協議の場を設け、リチウムイオン電池などの充電式電池が燃やさないごみに排出されない環境づくりに努めています。

### 多様な回収方法や効果的な異物除去法を採用

プラスチック製容器包装ベールに限っていえば、新潟市の収集物の中にリチウムイオン電池などの発火物の混入は、現在に至るまで皆無となっています。前述したように、2013年から「プラマーク容器包装」という呼び方でプラマークが付いた容器のみを回収する方法を採用しているため、「プラスチック製容器包装」という名称よりも市民にはわかりやすく、異物混入が少なくなっているのではないかと考えられています。

また、使用済み小型家電の回収については、多くの自治体は役所などの公共施設にのみ回収ボックスを設置していることが多いようですが、新潟市では公共施設に加え、スーパーや商業施設などの民間企業と連携した拠点回収を進めています。市のホームページで44か所の回収場所を詳細に案内するほか、回収実績

新潟市 新田清掃センター



野村興産株式会社 リサイクル工場

も公開しています。さらに、リサイクル業者による宅配回収にも注力するなど、電子機器を排出しやすくするための施策について積極的に推進しています。

ごみ処理施設における発火防止への取り組みは、当事者である清掃センターの現場でも行なわれています。そのひとつが、「燃やさないごみ」を破砕機にかける前に電子機器などの異物を手選別で除去するという方法です。さらに、これまでは不燃物の破砕ラインと大型可燃物の破砕ラインを同時に稼働させていましたが、現在は時間をずらして破砕処理を行なうという方法も採用しています。これは、火種となる破砕後の電池類と、可燃物の破砕物が選別工程で混じることによる火災の拡大を起こさないようにするためです。

### 今後の課題は 現状をいかに知ってもらうか

これまで述べてきた通り、さまざまな施策を駆使してリチウムイオン電池を含む電子機器による発火トラブルの解消に取り組んできた新潟市ですが、2020年4月から11月までに市のごみ処理施設で発生した発煙や発火の数は計110件と、その数はいまだに減少する兆しを見せていません。こうした厳しい現状に対し、ごみ処理に関する基本計画の策定や啓発活動を担当する環境部循環社会推進課・企画グループの長谷川彰さん、金子良平さんは、今後の課題として周知活動のさらなる徹底を挙げました。

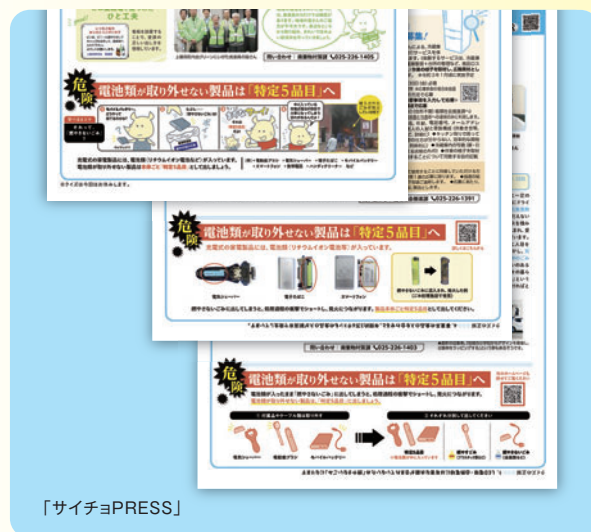


長谷川 彰さん

「燃やさないごみの日」に出されたりリチウムイオン電池



新潟市ホームページより



「サイチヨPRESS」  
上から 61号(令和2年 12月20日) / 60号(令和2年 10月4日)  
59号(令和2年 8月16日)

が、ごみ処理施設にとってどれほど危険なものなのか、ひとつ間違えば火災による大事故を引き起こしかねないという事実を市民の皆さまにまだ伝えきれていないのでしょうか。そのリスクを知っていただければ、必ずや改善できる問題だと考えています(長谷川さん)

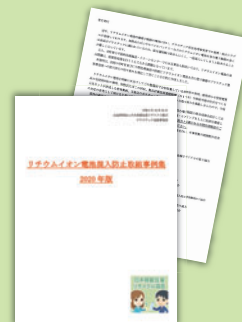
「市のホームページや情報誌『サイチヨPRESS』を通じて、今まで以上に広く市民の皆さまに現状を知っていただくための周知活動に注力する必要性を感じています(金子さん)

新潟市環境部の挑戦は職員たちの強い決意のもと、今なお続いています。



金子 良平さん

容り協では、全国の自治体で発生しているリチウムイオン電池などによる発火トラブルの解消に向けて、「リチウムイオン電池混入防止取組事例集2020年版」を制作しました。今回取り上げた新潟市などの市町村の施策、使用済小型家電の回収システム、中間処理施設におけるリチウムイオン電池を含む電子機器の除去技術などを紹介しています。どうぞご活用ください。



## 3R推進団体連絡会 2019年度の3R取り組み報告

容器包装の3Rを進める8素材団体で構成されている「3R推進団体連絡会」は、容器包装の3R推進に向けたさまざまな取り組みを展開しています。「自主行動計画2020（第3次自主行動計画）」の4年度目にあたる2019年度の実績（2020年12月発表）の概要を掲載します。（ご参考▶<http://www.3r-suishin.jp/>）

### 3R推進団体連絡会の構成団体

- ガラスびん3R促進協議会
- スチール缶リサイクル協会
- PETボトルリサイクル推進協議会
- アルミ缶リサイクル協会
- 紙製容器包装リサイクル推進協議会
- 飲料用紙容器リサイクル協議会
- プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
- 段ボールリサイクル協議会

### リデュース 環境配慮設計の普及

#### リデュースに関する2019年度実績（2004年度比）

素材	2020年度目標（2004年度比）	2019年度実績	2006年度からの累積削減量	備考
ガラスびん	1本当たり平均重量で1.5%の軽量化	1.7%	270千t	
PET ボトル	1本当たり平均重量で25%の軽量化	24.8%	1,468千t	2016年度に目標を20%から25%に上方修正
スチール缶	1缶当たり平均重量で8%の軽量化	8.1%	301千t	2016年度に目標を7%から8%に上方修正
アルミ缶	1缶当たり平均重量で5.5%の軽量化	5.4%	110千t	2016年度より算出方法変更
飲料用紙容器	牛乳用500ml紙パックで3%の軽量化	2.9%	2,434t	
段ボール	1㎡当たりの平均重量で6.5%の軽量化	5.5%	3,988千t	
紙製容器包装	削減率14%	13.1%	2,356千t	2016年度に目標を12%から14%に上方修正
プラスチック容器包装	削減率16%	17.6%	111千t	2016年度に目標を15%から16%に上方修正

\*4素材（ガラスびん、PETボトル、スチール缶、アルミ缶）のリデュース率の算出方法は、生産重量シェアにより重みづけした軽量化実績に統一。

### リサイクル 事業者によるリサイクル推進の取り組み

#### リサイクル率・回収率に関する2019年度実績

素材	指標	2020年度目標	2019年度実績	参考：2018年度実績
ガラスびん	リサイクル率	70%以上	67.6%	(68.9%)
PET ボトル	リサイクル率	85%以上	85.8%	(84.6%)
スチール缶	リサイクル率	90%以上	93.3%	(93.2%)
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	97.9%	(93.6%)
プラスチック容器包装	リサイクル率（再資源化率）	46%以上	46.4%	(45.4%)
紙製容器包装	回収率	28%以上	26.6%	(27.0%)
飲料用紙容器	回収率	50%以上	41.4%	(42.5%)
段ボール	回収率	95%以上	94.6%	(96.1%)

#### 主体間連携のための取り組み（2019～2020年度の概要）

市民・自治体と事業者の意見交換会「容器包装3R交流セミナー」を福岡市、京都市、秋田市（2019年度）、2020年度は新型コロナウイルス感染防止対策を行なったうえで函館市、松本市で開催しました。また、2019年度の第14回「容器包装3R推進フォーラム」（東京都千代田区）には188名が参加され、2020年度の15回目のフォーラム（2021年1月）はWEB開催となりました。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で展示会などが相次いで中止になる中、オンラインで開催された「エコプロOnline 2020」の「SDGs Week Online」（2020年11月）に出展しました。



函館市での意見交換会



第15回容器包装3R推進フォーラム（WEB開催）

## 「プラスチック品質等に関する研究会」の開催

令和2年7月から9月にかけて、当協会は「プラスチック製容器包装の材料リサイクルによる再商品化製品の品質等に関する研究会(プラ品質等に関する研究会)」を3回にわたって開催しました。この研究会は、プラスチック資源循環戦略やレジ袋有料化などプラスチックの適切な利用や容器包装リサイクルを取り巻く昨今の環境変化に鑑み、プラスチック製容器包装再生処理事業者、当協会双方からの問題提起やオープンな議論を通じて、個社の工程改善の気づきや制度・運用の課題の発掘につなげることを目的としたものです。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン会議で実施しました。

工程・品質に関する技術責任者や実務担当者など現場の皆さんに参加いただいたこのような研究会の開催は初めてであるとともに、オンライン会議のためにもどかしい場面もありましたが、アンケートでは参加者から率直な意見を伺うことができました。今後もこのような意見交換の機会を設けてほしいといった声もいただき、必要に応じて同様の研究会、あるいは他の関係主体をも交えた会合についても開催を検討しています。

開催状況			
研究会	開催日	参加者	概要
第1回	令和2年7月30日	31社(32工場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用事業者アンケート(平成31年4月実施)結果報告</li> <li>● 容リ協からの問題提起(利用事業者ニーズ、臭気・吸湿率データの解析など)</li> </ul>
第2回	8月19日	30社(31工場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業者発表(2社)</li> <li>● 第1回研究会アンケート(質問・意見)への回答</li> </ul>
第3回	9月1日	29社(30工場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2回研究会アンケート(質問・意見)への回答</li> <li>● まとめ</li> </ul>

### 「プラ品質等に関する研究会」の議論・意見のまとめ



## 「エコプロOnline2020」に出展

今回のエコプロは新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を受け、「SDGs Week Online」として2020年11月25日～28日の4日間、オンライン開催となりました。



容り協は「エコプロOnline2020」展示ブースに出展。児童・生徒や一般消費者の皆さまに理解を深めていただくことを目的に、容り制度の基本と、リサイクルの流れ、禁忌品についてという3テーマを取り上げ、写真や動画を用いて解説しました。

また、近頃トラブルが急増しているリチウムイオン電池を中心に、特に捨て方に注意すべきものについて、その危険性と正しい捨て方を紹介するとともに、日々の暮らしの中でできることの実践を促しました。

### 「エコプロOnline2020」展示ブース内

**よくわかる！  
容器包装のリサイクル**

**1. 「容り法」・「容り制度」**

よくわかる！容器包装のリサイクル  
容器包装リサイクル法（以降「容り法」）ができた背景とは、わたしたちができることは？写真やイラストとともに

[もっと見る](#)

**リサイクルの流れ**

**2. どうやってリサイクルされる**

リサイクルの流れ  
家庭からごみとして出された後、どのようにリサイクルされるか。よく使われるプラスチック製容器包装を例に、リサイ

[もっと見る](#)

**トラブル急増！禁忌品について**

リチウムイオン電池など禁忌品の捨て方を知りたい

**3. トラブル急増！禁忌品について**

リチウムイオン電池など禁忌品の捨て方を知りたい。ごみに混ぜて捨てられてしまうと危険なものはたくさんある。「リチウムイオン電池」を中心に、その危険性やくらし

[もっと見る](#)

## 容り協ホームページ 英語版サイトに制度資料を掲載

海外企業の日本国内での事業拡大や多国籍従業員員の活躍が広がる中、容り協ではホームページに英語版サイトを設け、容り制度や容り協の概要などを紹介してきました。

2020年10月、英語ユーザーにとってさらにわかりやすいサイトづくりを目指し、新たに英語版の制度資料(PDF)を掲載しました。同サイトでは、委託単価・算定係数といった数値や経済産業省発行の容り制度パンフレットなども閲覧できますので、ご活用ください。

### 容り協ホームページ



The Japan Containers and Packaging Recycling Association

The Japan Containers and Packaging Recycling Association

**The Containers and Packaging Recycling System in Japan**

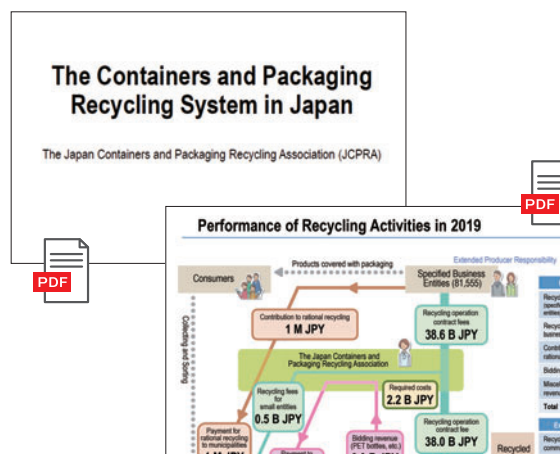
**PROFILE** Promoting recycling of waste containers and wrapping

- Containers and Packaging Recycling Act and JCPRA
- Objective
- Activities
- History
- Organization
- [Access Map](#)

**POINT OF ACT** What is the Containers and Packaging Recycling Act ?

- Background
- Definition
- Purpose of the Act

**RECYCLING PROCESS** Recycling fees are efficiently used for recycling



制度資料(PDF)

## 市町村説明会の開催

令和3年度の再商品化事業に関して市町村および一部事務組合向け説明会を、令和2年11月に主要5都市(札幌、仙台、東京、大阪、福岡)で開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、①会場ごとに参加人数を制限、②座席間隔を空け、ソーシャルディスタンスを確保、③マスク着用や手指の消毒、検温の実施、④人数の多い東京は2回に分けて開催、などの対策を実施しました。説明会では、分別基準適合物の引取り及び再商品化の概要や申込みに当たっての注意事項、合理化拠出金などについて説明し、説明会6回の総参加者数は298名(前年494名)でした。



説明会場(東京)

また、容リ協ホームページに申込資料一式を掲載するとともに、説明会に出席できなかった担当者向け説明内容を撮影した動画を作成し11月に配信しました。さらに全国での説明会が一通り終了した12月には、説明会の開催状況や質疑応答を取りまとめた概要を掲載しました。なお、動画はYouTube「容リ協動画チャンネル」でご覧いただけます。



## 容リ協日誌 (令和2年12月~3年2月)

容リ協行事	
令和2年 12月2日	令和2年度定時理事会
14日	臨時評議員会
14日	特定事業者向け 令和3年度再商品化委託申込み受付開始
16~17日	入札説明会 (16日:紙製容器包装、プラスチック製容器包装) (17日:ガラスびん、PETボトル)
3年 1月27日	開札式(3素材)
2月3日	開札式(PETボトル上期)

ホームページ情報開示(予定も含む)	
令和2年 12月4日	令和3年度の入札に向けた 説明会資料の掲載
14日	委託申込開始ニュース・関連資料等の掲載
18日	令和3年度事業計画書、予算書の掲載 (評議員会終了後)
21日	令和2年度プラスチック製容器包装パールの 品質調査結果一覧表の掲載
3年 2月中旬	「わたしのまちのリサイクル」 コンテンツのリニューアルについて
2月中旬	落札結果速報(3素材)
2月下旬	落札結果速報(PETボトル上期)
2月下旬	再商品化事業者説明会資料の掲載

## 編集後記

元号が「令和」となって早くも3年目になりました。改めて「令和」の意味を検索してみました。出展元は万葉集。作者は諸説あるらしいが大伴旅人(おおとものたびと)といわれています。原文の引用部分は「初春令月、気淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香」。現代語訳は「新春の好き月、空気は美しく風は柔らかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉の如く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりを漂わせている」。「令和」に決定した際の首相談話は、「春の訪れを告げる梅の花のように、明日への希望と共に、一人ひとりが大きく花を咲かせられる日本でありたいとの願いを込めた」とのことでした。しかし令和2年は新型コロナウイルスに蹂躪され、明日への希望どころか親しい人にも会えず、好きなスポーツもできず、連日流れるテレビの報道に毒づいている自分がいました。そんな中、今号の取材でお笑い芸人マシンガンズ滝沢さんのお話を聞く機会を得ました。昨年は小池東京都知事のツイッターで有名になり、環境省の「サステナビリティ広報大使」に任命されたりとご多忙の中、そして新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも東京都のごみ清掃員として活動しているとのことでした。現場でさまざまな情報を聞き次なる行動や目標を話す彼に「令和」のかかりがしました。

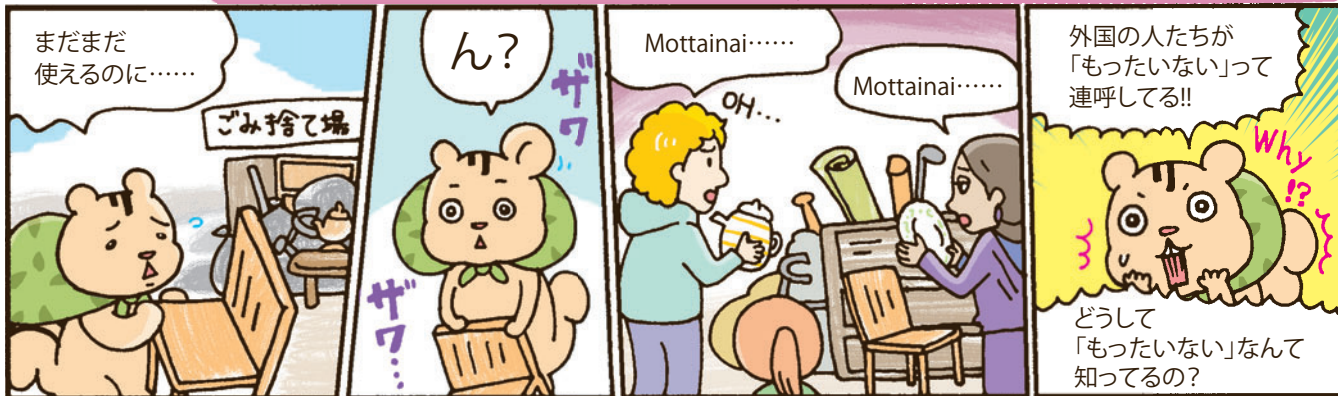
地球を守り隊!



森のくらしを守るため、地球の環境をパトロール! リスのエコシロウがエコチェック!

第12回

日本の“Mottainai”が世界に広がる! 「もったいないばあさん」プロジェクト



「もったいないばあさん」プロジェクト

人気絵本シリーズ「もったいないばあさん」を世界に広げ、持続可能な社会の実現を目指す、環境省と講談社の共同プロジェクト。シリーズ第1作『もったいないばあさん』のほか、環境問題がテーマの『もったいないばあさんかわをゆく』(川へのゴミ捨て)、『もったいないばあさんのいただきます』(食品ロス)、『もったいないばあさん まほうのくにへ』(リサイクル)の4作品がアニメ化され、YouTubeで無料公開中。



絵本『もったいないばあさん』(作:真珠まりこ/講談社)



4作品を日本語・英語・フランス語・スペイン語・中国語・ヒンディー語で公開中!

原作者の真珠まりこさんは、「もったいない」には敬う心が込められていると話されています。世界中で子どもに大人気で、インドでは作品を見た子どもが、親御さんに伝えることもあるそう!

講談社 海外事業戦略部 古賀義章さん



“もったいないばあさん”が、5つの言葉に訳されてるんだね~

環境問題のことがわかりやすい!

Mottainai Grandma

Mamie Mottainai

La Abuela Mottainai

怕浪费婆婆

मोचाइनाइ दादी माँ



日本語



英語



フランス語



スペイン語



中国語



ヒンディー語